

## 平成29年第3回市議会の質疑概要

【決算審査特別委員会・文教分科会】平成29年8月28日（月）

■松本 光治 委員（公明党堺市議団）「図書館費について」

質問：これまでの開館日拡大、開館時間延長についてお示しを。

答弁：図書館の利用機会の拡大と利便性の向上のため、平成22年4月より、中央図書館、各区の図書館、分館では、国民の祝日を開館日とし、また、開館時間については、中央図書館と各区の図書館、堺市駅前分館において、火曜日から金曜日までは、午後7時30分までを午後8時までとし、土曜・日曜及び祝日は、午後5時を午後6時まで延長した。

質問：「今後の中央図書館のあり方」＜答申＞の中では、開館時間についてどのように記載されているのか。

答弁：平成29年3月に、堺市立図書館協議会から提出されました答申において、各区の区域図書館、中央図書館の利便性の向上という項目の中で、開館時間の延長や開館日の拡大について検討を進めてもらいたいという意見をいただいている。

質問：答申に対して、教育委員会としての対応は。

答弁：答申の中にもあるように、費用対効果を一番に、また、最小の経費で最大の効果があげられるよう、開館時間あるいは開館日の拡大を検討していきたいと考えている。

質問：どういう点で費用対効果を考えていくのか、その視点についてお示しを。

答弁：現在各自治体では民間委託が多く行われているところであるが、現時点では、最小の経費で最大の効果をといったバランスを取るという総合的な判断をして、取り組んでいきたいと考えている。

要望：今後は少子高齢化の影響もあり、最小の経費というのは重要であるとする。ただその中でも、市立図書館が、いつも開いているというのは市民の喜びである。どのように実現していくかを考えていただくよう要望したい。

## 平成29年第4回市議会の質疑概要

【文教委員会】平成29年12月12日（火）

■石本 京子 委員（日本共産党堺市議会議員団）

「陳情第70号、71号、72号について」

質問：現在の堺市子ども読書活動推進計画について。

答弁：堺市子ども読書活動推進計画については、「子どもの読書活動の推進に関する法律」とそれに基づく「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、また「大阪府子ども読書活動推進計画—大阪府子ども読書ルネッサンス—」を受け、平成16年3月7日に「堺市子ども読書活動推進計画—夢をはぐくむ・堺っ子読書活動—」として策定した。

質問：計画による成果は。

答弁：学校園、家庭、地域、市立図書館がそれぞれ連携を深めながら、子どもがいつでもどこでも本に親しめる環境づくりに取り組み、読書の大切さを啓発広報しながら事業を進め、多くの成果をあげている。たとえば、本市立図書館における児童資料の貸出点数は平成17年から27年にかけての10年間で26%増加した。また、学校園との連携では「読書」「調べ学習」に関する団体貸出も需要が増えている。

質問：改定に向けてのスケジュールと市民参加について。

答弁：平成28年度から改定作業に取り組んでいる。平成28年度開催の「堺っ子読書フォーラム」の場で、参加者に計画改定に向けたご意見を募集し、その中で子ども読書に関わるボランティア等の市民が参加できる仕組みをつくるよう要望があった。これを受け、今年度はボランティアに呼びかけ、中央図書館との意見交換の場として「堺市子ども読書活動推進計画改定に向けての検討会」を3回開催し、改定素案作成に向け意見聴取を行った。現在、子ども読書活動推進事業に取り組む庁内各課の担当職員で素案の作成を進めており、今後は、多面的な議論を深めるため、市民や学識経験者等から成る「策定懇話会」の設置を考えている。最終的な計画改定は、平成30年度中を見込んでいる。

質問：図書館事業におけるボランティアとの連携について。

答弁：図書館では、市民によるボランティア活動が活発に展開されている。子ども読書活動推進事業においては、乳幼児期から青少年期まで子どもたちが読書に親しむための「堺市図書館まつり」や各図書館での「おはなし会」「読み聞かせ会」等の事業、また小中学校を訪問する「子ども読書の日」記念事業などさまざまな場面において、ボランティアと連携して取り組んでいるところである。

質問：学校図書館の整備について、計画の中の認識は。

答弁：今回の改定において、学校図書館に関する項目は重要であると考えている。学校教育部をはじめ、庁内関係部局と連携を図りながら改定をすすめていきたい。

質問：子育て支援関係部局や学校教育、地域住民等との連携についてお示しを。

答弁：各部局との連携や市民の参画協働は重要と認識している。

要望：学校司書の人員配置を考えるとともに、この計画の中にも組み込んでもらいたい。